

J Sights Corporation

北米産大豆の見通し及び今後を考える

2026 年 8 月

J サイツ株式会社 | 島尾裕子

弊社では北米産食用大豆を輸入している。カナダ産及び米国産より主に豆腐や油揚げ、がんもどきなど様々な原料に使用いただいている。今回はカナダ産大豆の発育状況及び USDA WASDE レポートを基に米国産大豆の見通しを整理する。併せて、今後の大豆市場を踏まえた弊社の取り組みについて述べる。

1. カナダ産大豆(オンタリオ州)の発育状況

オンタリオ州全体では、大豆は全体として良好な生育状況となっている。乾燥した状態が続いている地域はあるものの、依然として高い収量ポテンシャルを維持している。

病害の発生はほとんど見られていない。マメコガネによる被害がわずかに見られる圃場もあるが、現時点では懸念すべきレベルではない。

生育状況としては、早期に作付けされた畑では、莢伸長始め段階に達しており、遅く作付けされた畑でも開花終わりの段階まで順調に生育している。

過去 10 日間の気温は平年並みで推移しており、大豆の生育にとって好ましい条件となっている。

また、8 月初めに報告されていた山火事による煙の影響はすでに解消されており、現在は生育に問題はない。

2. 米国産大豆の見通し(USDA WASDE レポート)

大豆生産量は 45 億 1,900 万ブッシェルと予測され、収穫面積の拡大と単収のわずかな低下により、前月から 4,400 万ブッシェル増加した。収穫面積は、ミズーリ州、ミシシッピ州、ミネソタ州での作付面積拡大を受け、7 月時点の予測から 140 万エーカー上方修正され、8,580 万エーカーとなった。

大豆単収予測は 1 エーカー当たり 52.7 ブッシェルとなり、前月の予測および昨年の記録的な単収からは 0.3 ブッシェル下回ったものの、引き続き非常に良好な水準を維持している。

2026/27 年度の米国大豆供給量は、国内生産の増加により前月から 3,900 万ブッシェル増加すると予測されている。

指標	2025/26	2026/27(7月)	2026/27(8月)	備考
作付面積(M acres)	81.2	85.4	86.8	7月→8月で +1.4M acres
収穫面積(M acres)	80.4	84.4	85.8	MO・MS・MN で増加
単収(bu/acre)	53	53	52.7	前月比 -0.3
生産量(M bu)	4,262	4,475	4,519	+44M bu
供給量合計(M bu)	4,612	4,830	4,869	+39M bu
期末在庫(M bu)	325	310	320	需要増でやや低下
農家販売価格(\$/bu)	10.4	11.4	11.4	価格上昇傾向

米国大豆：主要指標（2026/27 年度）

J Sights Corporation

3. 世界大豆生産の動向

以上を踏まえ、世界の大豆生産ではウクライナで作付面積の減少が報告されているものの、米国の堅調な増産がその減少分を相殺しており、2026/27年度の世界需給は安定的に推移する見通しである。

4. 今後の市場環境と弊社の取り組み

北米産大豆の生産状況は総じて良好であり、米国では2年連続の豊作が見込まれている。一方、大豆先物価格は直近で上昇しており、中国の買い付け動向やバイオ燃料政策など、需要面の支援材料が複合的に作用している。

日本の大豆製品メーカーにとっては、先物価格の上昇、円安基調の為替、海上輸送コストの上昇など複数の困難が重なっている。また、日本市場が求める高たんぱく品種は減少傾向にあり、新規品種でも従来のような高たんぱくタイプは少なくなっている。

さらに、近年の温暖化や異常気象の常態化により、大豆生産地でも高温化が進み、品質劣化が顕著になりつつある。こうした状況は今後さらに加速する可能性が高く、弊社では北米産サプライヤーとの密な情報交換を継続し、最良の品種を確保するとともに、日本の顧客と協力しながら品質維持のための取り組みを進めていく。



お問い合わせのご案内

弊社では、北米産大豆の品質維持や品種選定に関する取り組みを、国内のメーカー様と協力しながら進めております。

こうした取り組みにご興味のある企業様は、ぜひ弊社まで[お問い合わせ](#)いただけますと幸いです。